

日東亜鉛株式会社

めっき加工の環境対応を情報発信 組織全体の意識・職場環境が向上し お客様満足度のアップを期待



環境にやさしく、お客様にも感謝される製品づくりに取り組んでいます。



日東亜鉛株式会社

創業:1959年(昭和34年)
所在地:川崎市川崎区水江町 4-3
事業内容:鋼管や各種構造物の
溶融亜鉛めっき加工
代表取締役:本野 晃司
従業員数:124名



溶融亜鉛めっき加工の専門メーカーで生産量は東日本トップクラス。めっき加工技術だけでなく、さまざまな付帯作業や配送まで、全てのサービスをワンストップで行う実力が認知されており、新幹線やスカイツリーでも日東亜鉛の技術が使われています。

認識した経営上の課題

めっき加工業における環境負荷を低減させるため(課題:本業の環境影響)、溶融亜鉛めっき技術による「**環境負荷低減のための技術関連の課題解決**」に取り組んでいます。また、地域企業として、自社の取組に関する情報発信を重視し、(課題:地域社会の理解、共生)、「**自社情報の公開・発信**」につながる活動を展開することで、イメージアップも含め企業としての信頼度の向上につなげています。その際、重要になってくるのが従業員一人ひとりの存在です(課題:人材の採用・成長)。そこで、現場がいきいきと働きがいを持って長く勤められるような「**職場環境の整備・改善**」の推進でも、SDGsを活用しています。

「認識した経営上の課題」からSDGsを活用して 「取り組んだ内容」と「取り組んだ効果」

「**環境負荷低減のための技術関連の課題解決**」では、優れた防食性能は保持しつつ、人や環境に配慮した溶融亜鉛めっき技術「ピュアZ」を開発し、環境負荷物質を低減した製品を製造しています。「**自社情報の公開・発信**」の活動では、工場見学会を積極的に行っており、めっき加工業への理解と環境全般に関する問題意識の啓発を行っています。SNSやHPなどインターネットを使った情報の公開・発信にも力を入れており、企業としてのイメージアップと同時に従業員の意識の変化にもつながっています。「**職場環境の整備・改善**」では、健康経営を掲げ、日本健康会議「健康経営優良法人」に認定、日本次世代企業普及機構による「ホワイト企業認定・ブロンズランク」も取得しています。人材の能力開発・育成の仕組みでは、クレーンやフォークリフトなど各種免許の取得支援制度を導入しています。多様な人材の活用としては、外国人技能実習生にめっき加工業の技能習得に加え、日本文化を学ぶ機会も作っています。整理・整頓・清潔・清掃・しつけ・作法の6S活動をはじめとしたさまざまな取組にSDGsというグローバルな物差しを使うことで、今まで以上に社内の環境整備・改善が実現しています。情報の公開・発信による意識の変化も含め、組織全体において意識改革が進み、経営にも好影響(11期連続黒字)を与えています。

取り組んだ経験からアドバイス

SDGsによるさまざまな取組は、企業イメージを変え、従業員の仕事へのモチベーションアップにつながります。インターネットや工場見学を通して、自分たちがやっている取組について広く情報発信することは、社会とのコミュニケーションです。SDGsの取組は、まさに企業にとって何よりも大切な、働き甲斐を持てる職場作りに直結しています。

6S活動がSDGsにつながってます。
SNSのフォロワーも増えてます!



代表取締役社長 本野 晃司(中)、取締役・川崎工場長 久富 哲(右)、
取締役・管理本部長 杉山 茂(左)